

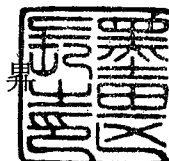


20 墨整都第406号

平成20年10月22日

国土交通省道路局長 様

墨田区長 山 崎



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあったこのことについて、
別紙のとおり提出します。

[担当] 墨田区都市整備部都市整備課事業調整担当

天海 話03-5608-6281

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

墨田区

本区では平成１７年に「墨田区基本構想」を策定し、協治（ガバナンス）を基本方針として掲げている。これに基づき、限られた財源の中で、質の高い社会資本を着実に整備していくためには、次のような対策を重視し、道路政策の効率化を積極的に進めていくべきであると考える。

- 1 情報の積極的な提供とアカウンタビリティの向上を図り、住民参加を積極的に進めるとともに、双方向での合意形成に努める。そのためには、パブリック・インボルブメントの手法を活用し、住民との協働によりコスト削減や事業について十分協議しながら、きめ細かなまちづくりを行っていく。
- 2 事業の効率的な推進とコスト削減を進める考え方を明確にするため、事業の必要性と効果を評価する仕組みを構築し、広く解り易いものとする。また、ライフサイクルコストにわたるバリューエンジニアリングの検討を行い、工期、工事費の削減を図り、施設の長寿命化を促進する。

また、本区においては次に掲げる政策について重点化し、優先的に進めていただけるよう要望する。

- 1 押上・業平橋地区における新タワー建設に伴い、周辺区道において魅力ある快適な道路整備を行うこととしているため、これに係るまちづくり交付金等の国庫補助金の支援及び充実
- 2 道路及び橋梁等の既存社会資本の適切な管理を行っていくため、道路施設の保全と再生に係る国庫補助金制度の創設
- 3 住宅市街地総合整備事業（密集事業）や市街地再開発事業の道路整備事業における国庫補助事業の拡大

今後の道路行政についての意見・提案

様式②

②-1 地域の現状と抱える課題

墨田区

○現状	○課題
本区は、総人口に占める高齢者の割合が既に20%を越えている上、今後、いわゆる団塊の世代が企業を退職する年齢となり、健康で社会参加意欲の高い「シニア層」が増加していくことが見込まれている。さらに障害をもつ方々が、地域社会の一員として社会に参画していくためには、高齢者や障害者が住み慣れた地域で自立した生活を営み、いきいきと活動できるような仕組みづくりが求められている。 また、本区は近代産業の発祥の地であり、現在も多種多様な業種の企業が集積する中小零細企業のまちであるが、区内産業は、製造業の区外・海外への移転、産業構造の転換、後継者難などから事業所数が減少の一途をたどるなど、大きな転換期を迎えている今、押上・業平橋地区における新タワーの建設は、本区のまちの姿や区民の暮らしに大きな影響をもつ。	成熟社会の到来と価値観やライフスタイルの多様化によって、多彩な区民活動が繰り広げられる中、魅力や活力あるまちづくりを進める上での喫緊の課題は、遅れている環状道路及び都市計画道路の整備、歩行空間のバリアフリー化などの事業を推進していくことであると考える。また、渋滞緩和のための交差点改良や、安全で快適な歩行空間を確保するための自転車道の検討なども必要である。 加えて、新タワーのオープンにより多くの来街者が見込まれており、都市型観光地としてのイメージを確立し、観光資源の面的広がり形成するためには、墨田区観光の魅力である、「江戸時代から培われた下町の伝統文化が今に受け継がれているまち」「生活の息吹が感じられるまち」という二つのコンセプトをもとにしたまち歩き観光を推進していくための基盤整備が必要である。

- 1 墨田区都市計画マスタープランにおいて、未整備幹線道路の整備促進を位置付けており、特に一般国道や都道の都市計画幅員を整備することにより、慢性化する交通渋滞に対処し、時間的ロスの軽減と周辺環境の改善に繋げていく。
- 2 高齢者や全ての障害者の移動や施設利用の利便性、安全性の向上を促進するため、「バリアフリー新法」及び「移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める省令」に基づく特定道路の新設または改築を行う場合だけでなく、その他の道路の整備を行う場合においても、ユニバーサルデザインを旨とした道路空間を形成する。
- 3 道路景観ガイドラインの作成や電線類の地中化等による歩行者空間の整備を促進し、まち歩き観光ルートとして、国道・都道・区道の観光ルートのネットワーク化を図り、「すみだ」らしさにあふれた観光資源の魅力によって多くの人が訪れる、にぎわいのあるまちを創出する。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

墨田区

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	押上・業平橋駅周辺地区に新タワーが建設されることに伴い、当該地区を中心に、錦糸町駅地区、両国駅地区を結ぶルートを主要な観光路線として考えているため、ルート周辺の一般国道や都道の道路拡幅とともに電線類の地中化を重点的に整備する必要がある。 ①既に事業計画説明会が開催された両国拡幅事業の効率的な事業展開（両国橋を含む） ②都市計画に基づく一般国道6号拡幅の早期実現	歩行者が安心して歩ける歩道が確保され、交通事故の危険性が減るとともに、ユニバーサルデザインに基づいた施設整備やバリアフリー化が進むなど、誰もが安全・快適に暮らし、移動できるまちとなる。また、災害に強い道路となり、緊急輸送ルートとしての機能も担うことができる。	
・都市交通の快適性、利便性の向上	地域の円滑な交通に支障を来たしている踏切解消のため、早期の事業化を進めていく。 ①東武伊勢崎線2号踏切 ②東武伊勢崎線17号踏切	踏切遮断による損失時間を削減し、自動車や歩行者の集中を緩和することで、CO₂の削減効果も期待できる。	